



ふるさとに誇りを

校長 作田潤一

近年、情報化やグローバル化が進展し、経済社会が大きく変動する中で、自らが生まれ育ったふるさとへの関心が希薄になり、若者たちがふるさととのつながりを見失いがちな状況があります。このようなときこそ、ふるさとに誇りと愛着を持ち、家族や地域との絆を大切にしながら、自分で考え、先見性を持ってたくましく未来を切り拓いていく人材を育成することが極めて重要だと考えます。

コロナ禍の制約はありますが、工夫をして郷土の歴史や文化、優れた先人の偉業やふるさとで活躍する人の生き方に触れる活動を設けていきたいと考え、地域の皆様にご協力いただいて今年度の試みを行って参りました。

先月末に生徒会リーダーと一緒にふるさと学習を行った本校職員も御船町の素晴らしさや可能性を確認できた様子でした。「ふるさとの為に・・・」と考えた創造的な活動が生まれることを期待しています。

ふるさとの山に向ひて言ふことなし

ふるさとの山はありがたきかな

これは、石川啄木の有名な句です。生徒がふるさとの素晴らしい自然や歴史、文化などを学び親しむ機会を充実させ、ふるさと御船町に誇りと愛着を持つ取組を今後も進めていきたいと考えています。

田中裕美様から学校に消毒液等を、学校歯科医の入江様から全校生徒に歯ブラシを寄贈いただきました。図書委員会の学級文庫プロジェクトに家庭から256冊の本の寄贈をいただきました。ありがとうございました。

令和3年度第71回卒業証書授与式

3月5日（土）にコロナ対策を講じたうえで、卒業式が挙行されました。厳粛な雰囲気の中、卒業生は、担任の呼名に対して3年間の思いを込めた大きな返事をし、成長した立派な姿を見せていました。卒業生147人は校長先生から卒業証書を受け取り、3年間過ごした学び舎を巣立っていきました。式では、高濱尚央くんが卒業生代表として「困難にぶつかり、悩み、苦しむこともあると思います。きっと、そんな時、この御船中学校で過ごした大切な3年間で、何度でもわたしたちの背中を押してくれることでしょうか。それぞれの夢や目標に向かって、強い意志で前へ進んでいきたいと思えます。」と答辞を述べました。



3年間の思いを込めて

卒業生の思いを受け継ぎ、在校生が新たな伝統を作り上げていってくれることでしょうか。

ふるさと学習（生徒会リーダー研修）

2月28日（月）に、生徒会役員の生徒たちが「ふるさと学習」を行いました。御船町にある史跡や名所を巡り、その歴史や文化に触れることで、改めてふるさとの素晴らしさを実感するリーダー研修です。コロナ感染防止に留意して半日で実施しました。初めての試みの今回は、東禅寺、八勢眼鏡橋と吉無田高原に行って、それぞれ講話や見学等を行いました。



座禅も体験しました

生徒たちの感想には、「御船町について知らないことをたくさん知ることができた。魅力溢れる御船町の良さを、みんなにも知ってもらいたいと思った。」という言葉がありました。ふるさとに誇りを持ち、生徒会活動への意欲を高める充実した学習となりました。

御船高校生徒の芸術作品を鑑賞

2月7日から2月14日にかけて御船高校普通科芸術コース生徒の作品（絵画、書道）を御船中学校多目的ホールに展示しました。御船高校の先生方に搬入、設置をしていただきました。多目的ホールが、まるで本物の美術館のような空間になりました。作品はとてもしばらしいものばかりで、御船中の生徒たちは、美術の時間や昼休みに作品の鑑賞を堪能していたようです。



作品に引き込まれました！

1年生の生徒は「どの作品もすごいものばかりでした。私は絵画に興味がありますが、平面にどうやったらこのように立体的に描くことができるのかとても不思議に思いました。御船高校にとっても興味をもちました。」と感想を述べていました。

熊本県学力・学習状況調査

12月に実施された熊本県学力・学習状況調査（1・2年生、国・数・英）の結果をお知らせします。

1年生は3教科とも県の正答率を上回りました。2年生は国語が県の正答率を上回りました。数学と英語は下回ったものの昨年に比べ伸びが見られました。「SMARTな授業」の取組や家庭学習の工夫、生活習慣の改善などが数値の向上につながっていると考えられます。

質問紙調査では「友達のささえ」、「学級の絆」、「感動体験」のスコアが全国値と比較して上回っています。学校行事、夢輝き講演会、ゆうあいタイムなど、コロナ禍でも工夫した取組が数値に表れているようです。課題が見えた項目は「ソーシャルスキル」や「社会参画」がありました。結果を今後の教育活動に反映させていきます。